

# 2016年度 漢城大学校サマープログラム報告書

釧路校 学校カリキュラム開発専攻数学分野 4年 古御堂菜穂

私が今回の漢城大学校サマープログラムを選んだ理由は大きく分け、2つあります。1つ目は、今年の3月、JENESYS2015 日本大学生訪問のメンバーとして韓国を訪問した際、今までメディアで報じられていた韓国情勢を鵜呑みにしていた自分がいることに気づかされ、自分の目で隣国である韓国を知り、より近い存在でありたいと思うようになったからです。2つ目は、現在、卒業研究として日韓算数教科書比較を行っており、インターネットなどでは知ることができない韓国教育の『リアル』を学びたいと考えたからです。

今回のレポートでは、『授業』・『文化体験』・『暮らし』に焦点を当て、私の漢城大学校サマープログラムの経験について述べていきたいと思います。

## ○ 授業

平日の午前は漢城大学校の校内で授業を受けていました。2時間構成で、1時間目はハングル・韓国語での会話、2時間目は韓国の地理や政治・経済、教育などです。どちらも漢城大学校の土井美穂先生が講義をしてくださり、1時間目の授業では漢城大学校の学生に発音を教えてもらう機会もありました。私は韓国語を一切学んだことがなかったので最初はとても不安でしたが、先生や周りの韓国語ができる日本人学生に助けをもらい、授業についていくことが出来ました。土井先生は私のような初心者レベルに合わせてくれるので授業は難しくないと思います。もしこのレポートを読み、プログラムに参加したいけれど授業が不安という方がいたら、訪韓前にハングルの勉強しておくといいと思います。授業だけではなく、普段の韓国での生活でもきっと助けてくれるはずです。

授業とは少し離れてしまいましたが、今回土井先生のご厚意で、漢城大学校で数学を教えている明先生に出会うことも出来ました。

彼は日韓の数学家教科書の比較をしており、帰国後もお互いの研究について情報交換をしています。漢城大学校の先生方は学びたいと声を上げれば、できる限りの支援をしてくれます。訪韓前に、何を学びたいのか明確にすることによって、より充実したプログラムになると思います。



↑ 土井先生と日本クラスのメンバー

## ○ 文化体験

平日の午後、そして土曜日は大学のバスに乗り、さまざまな場所へと出かけました。

私が一番印象に残っているのは、DMZ という韓国と朝鮮民主主義人民共和国いわゆる北朝鮮との間にある非武装地帯へ行ったことです。「分裂の終わり、統一の始まり」と展望台に書かれており、DMZ を再び統一したときの平和のシンボルとしたいと言っていました。私は非武装地帯が恐ろしい場所だと考えていました。しかし実際に訪問してみると、観光地として整備されており、休戦中という緊張感はありませんでした。綺麗に整備された姿の方が、休戦中という事実より何倍も恐ろしかったように思えます。

他にも韓服（チマチョゴリ）を着て景福宮の散策、民俗村観光、ロッテワールドという遊園地や広蔵市場へ行ったりなど、古き良き韓国と現代の韓国の両方を知ることができました。



↑ DMZ で兵隊さんと



↑ ロッテワールド



↑ 辛かった...トッポギ

## ○ 暮らし

新しいドミトリーが出来たため、そちらに2週間滞在させていただきました。オートロックのマンションのような形で、洗濯機や電子レンジ、机などすべて備え付けだったので困ることはなかったです。大学までは毎朝バスが1本あり、約5分で到着します。歩いても行ける距離ですが、上り坂なのでおすすめはしません。ドミトリー周辺にはコンビニやパン屋さん、スーパーがあるので、たいいていのものは揃います。朝ごはんは提供されないなので、よくコンビニやパン屋さんを利用していました。地下鉄の駅へは歩いて15分ほどかかります。日本よりも地下鉄の路線がわかりやすいので、よく利用していました。

毎週日曜日は授業も文化体験もお休みです。私は韓国に友達がいたので、会いに行っていました。1日空いているのに何もしないのはもったいないです。訪韓する前に何をしたいのか考えておくといいと思います。

以前韓国を訪問した際は文化体験が主だったので、大学で授業を受けたり、同じ地にとどまって学ぶことは私にとって大きな刺激でした。きっとこのレポートを読んでいる方は、サマープログラムに少なからず興味があるのだと思います。しかし、海外に行くのが不安、韓国語ができないなどさまざまな行かない理由を並べていると思います。私も最初はそうでした。行かない理由を並べ、もう4年が経っていました。私は一つだけ後悔があります。それは4年生で行ったことです。今回のプログラムは本当に多くの学びがあります。これからの大学での学びに還元できることが多くあります。しかし私に残された時間はあと半年です。

現在、日本と韓国の情勢は良いとは言えません。「違う民族だからわかりあえない」そう簡単に諦めるのではなく、日韓のより良い未来のためには、私たちは歩み寄る必要があると思います。その手段は政治的なものだけではなく、韓国の友人を作ったり、一緒に遊んだり、言葉を交わしたり、そういった小さなことからできるのではないかと漢城大学校サマープログラムが教えてくれた気がします。